

# 北東北とキリスト教

八戸学院大学健康医療学部教授 木鎌耕一郎

何事にも光と影があります。明るい表通りもいいですが陽の当たらない裏道も魅力的ですね。

日本キリスト教史の表通りは、さしずめ長崎、横浜、函館などの旧開港地で、

青森県やその周辺地域は裏街道と言えるかもしれません。

でも、だからこそ興味深い。

横丁好きの皆さん、ちょっと手に取ってみませんか。



## 東方正教の地域的展開と移行期の人間像

北東北における時代変容意識

山下 須美礼

戊辰戦争で傷ついた旧仙台藩士族が、函館のロシア大使館付司祭のニコライを通してハリストス正教に入信し、彼らは明治初期に、三戸、八戸で宣教を展開しました。旧八戸藩の士族階級で受洗したパウエル源辰、マルク関春茂、パウエル白井毅一などは、やがて自由民権運動に携わり、青森県政界でも活躍します。本書は、八戸を含む北東北におけるハリストス正教会の盛衰と関連人物の軌跡を丁寧に掘り起こしています。

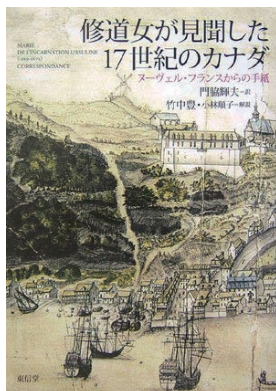


## みちのくの道の先

タマシン・アレンの生涯

目黒 安子

ミス・アレンは大正四年に来日したアメリカ人宣教師で、東京や仙台で働いた後、岩手県久慈市を拠点に教育、文化、農業振興に生涯を捧げた希有な女性です。アレン国際短期大学を覚えている方も多いでしょう。布教だけでなく実質的な地域貢献に大きな足跡を遺しました。日本のプロテスタント宣教の歩みの中でも特異な存在と言えるでしょう。ミス・アレンの生涯と功績を様々な記録から克明に浮かび上がらせた貴重な一冊です。



## 修道女が見聞した17世紀のカナダ

ヌーヴェル・フランスからの手紙

[マリー・ド・レンカルナシオン]

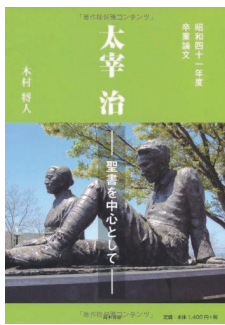
北東北と何の関係が…と思うなかれ。マリー・ド・レンカルナシオンは、八戸聖ウルスラ学院の母体であるカナダ修族の聖ウルスラ修道会の礎を築いた聖人です。数々の神秘体験、結婚、出産、出家（修道女になる）を経て、フランスから新大陸ヌーベル・フランス（現カナダ）に渡り、先住民に宣教した希有な人物です。筆まめで、多くの手紙を残しました。ディープな17世紀フランス神秘主義に関心のある人にもお勧めです。



## 津軽の近代と外国人教師

北原 かな子

明治期に青森県の教育をリードした東奥義塾。本書は、この学校に赴任した5人の外国人教師について紹介しています。なかでも滞在期間が最も長く影響力も大きかったメソジスト派のアメリカ人宣教師ジョン・イングについて、多くの書簡や報告書などを通して、人物像や貢献を詳しく取り上げています。明治初期、近代化を迎えた津軽の人々の熱気や息遣いが伝わってきます。



## 太宰治 聖書を中心として

木村 将人

太宰治は聖書を実によく読んでいたのですね。青森県ゆかりの文学者の意外な側面です。太宰は、内村鑑三の著作にも強く感化されたようです。太宰の文学作品と彼の生涯の中に、聖書の言葉がどのように影響を与えたか、どのような葛藤が生まれたのか。太宰と聖書の関わりを論じた本はいくつか出版されていますが、本書の著者は青森県の出身です。そして何よりも驚くのは、本書が著者の大学の卒業論文ということです。



## ハンセン病者の軌跡

小林 慧子

青森市に北限の国立ハンセン病療養所があることをご存知ですか。国策による患者の強制的な収容と隔離により、多くの人々が人権を奪われました。本書は、青森市にある松丘保養園の歴史を概説するとともに、元患者10人に対して著者が行なった聞き取りや、終戦後34年間松丘保養園に勤めた元園長・医師の荒川巖に対する聞き取りの記録が収められている。元患者にも医師にもクリスチャンがおり、興味深いところです。



## 東北のキリシタン殉教地をゆく

高木 一雄

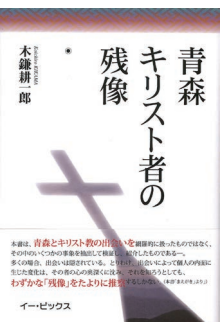
16、17世紀の日本キリシタン史は、世界的に見ても大きな出来事でした。東北各地にも多くのキリシタンが流れてきました。鉱山労働者として身を潜め、信仰を守った人たちもいます。奥羽諸藩は、徳川家康の禁教令と宣教師追放令の後、中央政府の政策に従い迫害と取締りを強化していきます。青森県地域では、津軽が京阪地方や加賀藩の主だったキリシタン武士の流刑地でした。本書は文庫サイズですが情報量は多く、奥羽諸藩でのキリシタンの殉教の詳細を知ることができます。



## 津軽のマリア川村郁

木鎌 耕一郎

戦後の北東北地方は僻地学校の集積地でした。八甲田山麓、旧平賀町の開拓地で、学校に通えない子どもたちのために小さな分校に赴任して、病に倒れるまで教育に心身を捧げた名もなきキリスト者、クララ川村郁の記録です。蟻の町のマリアこと北原玲子との類比から、「第二の蟻の町のマリア」とも評されました。彼女が病床の中で記した手記の紹介を中心に、その生涯を辿りました。



## 青森キリスト者の残像

木鎌 耕一郎

県南の皆さんにとくにお勧めしたいのは、第三部「青森飢饉とウェストン」です。ウェストンは、富士山や日本アルプスでの近代登山を通して海外に日本を紹介した人物で、登山家として有名です。でも彼の本業は、英国国教会の牧師で、日本には宣教師として来日しました。本書では、ウェストンが明治36年の大飢饉の際、横浜外国人居留地の救済基金の配分調査のため青森県を歩いた次第とその背景を記しています。

八戸学院大学健康医療学部教授

木鎌 耕一郎

1969年、神奈川県生まれ。南山大学文学部哲学科、同大学院文学研究科神学専攻博士前期課程修了。八戸大学商学部助手等を経て、→現職。

専門はキリスト教学、西洋思想。青森県地域のキリスト教史に関心をよせている。



ハブブックセンター  
HACHINOHE BOOK CENTER

〒031-0033 青森県八戸市六日町 16-2 Garden Terrace 1F  
TEL 0178-20-8368 FAX 0178-20-8218 web <https://8book.jp/>